



加
649
卷

堀 秀成先生著

音義本末考 全

臨川堂藏版

靜仁堂

たぐもつと軽くもすみ形と結
 みにくはたす新考ゆうとて
 なく、とてねくわと結系とて
 梅ねも、のた針よ新考あや
 まうふとてふく、雲おあは言き屋の
 けく、ねとるも、とて、これのきり
 けや、し、は、ほもた、と、乃、結、と、ひ、つ、り
 あ、く、ひ、れ、ら、な、よ、く、も、結、と、る、ひ、を、あ、新
 考、と、も、結、古、言、學、と、あ、十、五、の、音、の、結
 結、と、よ、う、な、と、ら、と、あ、き、と、う、の、ひ、と、き、あ、

三十一

ふらふらもれぬ。ね志の動を木のこゝろぬき
りよもつて、いふにたくしあはれ時とある
こゝろあらうゆゑ、こゝろも知れあぬた
ゆゑあはあぬふらうしく、小ぢぢかりやまよ
ひて風のふきはあぬあまふらうしくあぬぬ
うらうらあまふらうしく、母を銭うねるに
いふに、おまのこゝろを法とせんふらうしく
はらうしくあまふらうしく、いふに、あまの
ひらわきよなまのこゝろを法とせんふらうしく
あまふらうしくあまふらうしく、中村信治のあまの

あまふらうしくあまふらうしく、いふに、あまの
あまふらうしくあまふらうしく、いふに、あまの

始治の十年、此春、堀秀敏

觸る所なき音の象哉よく唱へ味いて知る

喉ヨリ初テ発ル息口ノ中ニミチテノビロガラムトスル象アリ
テ至ラヌ所ナキ勢ヲ含ム音

喉ヨリ初メテ発ル息口ノ中ニミチタル象は上よい強る一ノ
物の大虚空の中ニ成れるうごごきノビロガラムトス
ル象アリテ至ラヌ所ナキ勢ヲ含メル象ハ天泉アマノイヒとゆふ
れむと云ふ牙キザシ哉含メルうごごき

○有

喉ヲミラキテ伸ル舌ニヨリテナリイヅル音
地ノ成初メノサマニ思ヒ合スベシ

此ノ音初の有の音の中ニ自ら合して一音あり

ニタ音哉兼ニタ音よして一音ある理ありコトアリ音とん

るときは統て五十一音とありて一音ありまづは五音と一音と一
ア堅はオオアエイと数へ横はオノ音を除きてクスツメ云と数
うるときは父音九音とありて一音足らざればオノ音を再ビッ
ぞへてオクスツメ云と唱へる也これより有ノ音ハ一音よして
二音をとりぬたると

そは天地初発のとき 大虚空ニ成れる一ツノ物ありて

其ノ一ノ物の内ニ泉國をあらはし又上ニ天國を成りて

一ノ物ハ遂ニ顕國と成るさればそは顕國とふれる物猶

天地と分れたる一ノ物あるは初の有ノ音と則大虚空よ

成れる一ノ物よしてこの有ノ音は顕國のはづれなれば

本^(一)開
ラケソムル象

有ノ音ハト音よ、してニタ音找兼たること找悟る也
 ころしてまず、初ノ有ノ音を喉より初て發る音よ、諸
 音の頭ニ帯び持てる有ノ音よ、ナクの有ノ音ハ舌よ、い
 ささう觸れて初の有ノ音の末ありければ初の有ノ音找
 諸音の頭ニ帯び持てる如く、ナクの有ノ音の頭よ、亦初
 の有ノ音找帯びもてる理ある也

 是ハ本音のオノ音の象をあ、横ハオクスツ又と呼び續けむとあむい
 てよぶときは舌を延、横韻の始のオノ音の象をあ、これをた
 しハ火ノ心よ、呼べは去声の比音をふ、日ノ心よ、呼べは平声の比ノ
 音をあら、と、妙なるものあら、呼び試、一、毎
 ふべ

本^(二)溢
アブレイル象

喉をひらきて初て、いだが音あれ、此ノ音よ、この象あ
 り、それは開口息を次第ニ開け、進み出る音あら、よ、これ
 音そのと、ぐ、め、あれ、此ノ象あら、べき、自然の理あり
 うつ、國土の次第ニ開け、ゆる、その初よ、おもひ合もべ

産嬉歌

凡て開け初むる物、漸溢れ、いつる形状あり、假令、女子、
 産る、貌、ま、く、洪水、ふ、ど、け、こ、と、こ、そ、は、此ノ音、初、て、喉、よ
 開け、出る、音、よ、その、音、いつ、と、ま、ま、ぐ、も、満ち、廣、ぐ、ら、せ、と
 流る、勢、成、合、る、象、あら、找、よ、ろ、く、唱、へ、味、ふ、べ

本^(三)動
ウコク象

動浮渦

上よいゆゑのことと此ノ音いづれも満ちひろがるや
とほり勢成合する象あれが静なること成えむ必うごき
て止らる勢ある也けりまは此ノ音頭國のはげめあれバ
彼ノ久羅下那須多陀用幣流とある古へ傳のこととこの大
地の初より健剛旋轉て在り形状を今眼前に見るが如し
阿那奇異ふるも此ノ音よこの象あること成頭を
願けりふりくおもふべしこれらのこととおのづか著し
たる神代のを都々といふものよ委しといはれりをもく
息の觸る所ら大むの脣頤舌の三所あるは脣を阿ノ音の觸
る所よ天也頤を於の音のふり所よ泉也舌ハ中

央よ位し有ノ音のふり所よ大地也舌よ舌と
頤との動きは脣は動ざるものあるは大地よ公運自轉
の動あるは日の國に公運轉動ふまいたれよいや奇し
く幽契せし成おもふべし

本^四ノ延^行ユク象

未續獨活

此ノ音喉より出る息の何所へも分散することよつ約
て延び行る象あるをほもと伸る舌よよつて生^ナ出る音
あれバあり凡て何れの音の象もを此音成呼ぶ舌の形
よつることよ舌やぐく声の母よつてその母小肖る故也そ
ら息を舌よ寓して舌よつて生いどは故也又國土の漸

々小延び開けゆる形状よかひ合をべし

本^五才^大ホキナル象 馬牛珍

堅よも横よも開けいづる本ノ音あれバ自然大きき象を
備へたるあり

上件第一等より此ノ第五等まで次第^{ツキ}ノ
義を生⁺し⁺て⁺五義よ⁺り⁺れたる也

○右五義

○於

泉の成初のサマニ思と合スベシ

此ノ音大地ノ中心^{ナカ}に合へるは根ノ國とハ天地ノ初判の

時より大地の中心よ空闕ありてを云へバ也委
きこととは別よ云べし^一阿ノ音々天よ^一て空の
理を^一伊ノ音々泉平坂よ^一て万物發生の理を兼
ひ伊ノ音々天ノ衢よ^一て万物萌騰ノ理を兼ひた^一此
音々泉ノ國あれバ大地の中心よ^一て地^一の全体
をも兼たらしられバ本音の五音ハ五音し^一小兼る所あり
の^一とて^一有^一ノ音ハ二音よ^一て二音を兼て^一一ノ物よ
し^一て大地を兼たれバ外の四音と^一異也

本^一ワカレク^降タル象 第下落

喉^一より^一發^一る息^一々^一れ降^一り^一て^一願^一よ^一を^一ひ^一ま^一ば^一ま^一り

て此ノ音を生にきて彼ノ一ツ物の内は泉國の成るよちひ
ひ合まべ〜

○此ノ音茂唱ふハ舌小ハ沈む象あり

強く舌は解るよちひ

是レ此の音の内は幽ハ衣ノ音の牙を合める故也〜
衣の音ハ後ハ阿於の産靈よりて全ク顯ハる〜
是ハ最も妙ハ音〜
き理あり〜
小縁ハおもひ過と極〜
ら文

末

ナガクツツク象

こは第一等のワカレクダル象〜
そは此ノ音願の方へ判れ〜
下る貌ハ零あどの毎れ

本

スボマリタル象

怖老奥

下る形状あり〜
自然細長〜
象あるあり

此ノ音上よもいぬ〜
判れ下り願よ〜
生り出る音あれバ則この象ある也〜
ふれバ也そのう〜
立昇る勢ひあるもの〜
遂よその末の開ク貌をそ〜
降りて遂よその末の空ク貌を備へたるもの也〜
草木の牙〜
立昇る勢あるものは昇るま〜
に〜
遂よその末開けゆ〜
水ノ中は沈むもの〜
下る状あるもの〜

沈むまじく遂に一ツは空にゆゑ顔あるふりこ
音は此象あるをいこれ又準へて志るべし
此は「トカ」象「トカ」
マリナル象「ト」リシマリ
タル象も備へたり

此ノ音阿ノ音の見とめ難き象は對ひて「見」とむる象あ
るは此ノ第二等の義よかのづらう備へたりよくおもふ
べし

末
クラキ象

こは第二等のスポマリタル象よりいづこ末義也そ
は地心の空りたるは暗き顔あるハ勿論ふれば也

本
才重モキ象
重遲押

立昇りて開くものゝ輕く沈み降りて空るものハ重き
こといふもゆらありければ阿ノ音の輕きは對へて大の
音の重き象あるをよしく唱へ志るべし

然のこあらば開音ハ息散るもよ其聲輕くあり
合音ハ息散らば約る故ニ聲重くあるを思ふべし
此ノ音阿ノ對へて重き象あり又和行の遠ノ音はこ
の於ノ音ノ對へて亦重き象あることをよしく辨へお
ふべし

上件第一等より此ノ第三等までもと
一義あるを三義に分ちてその象成詳

阿於の音の本
あり有の音は
重く濁れ元
素は清明
元素と具
ハ其の重
濁れは判れ
下りて於ノ音
ハ本ノ重き
象あるべき也

本^一ワカレノボル象 兄上姉

喉より發了息^クれ昇^アる^ク 膠^ヨを^ヒひ^ラけ^ク 此ノ
音を生^レさ^テ彼ノ^一物^ヨリ^テ判^レれ^ル 昇^リて^テ天^ツ國^ト成^ル
る^ハおも^ヒ合^セる^ベし

○此ノ音を唱^ルる^ハ舌^ノ小^カ浮^上る^象あり強^ク舌^ノ觸^ルハ
あ^ラざ^レば
是^レ此ノ音ノ誘^ハる^ハ衣^ノ音^ノ萌^騰り^テ後^ニ伊^ノ音
と成^ルる^ベき^牙を^含め^ル故^也

末 アラハル、象

一ツ物^ヨリ^テ上^ニ天^ノアラ^ハレ^ルハ^ルニ^月々^ニ義^也

本^二アビムカフ象 我間合

此ノ音を呼^ぶは^ル 膠^ト願^ト向^フ象^也 天^ツ國^々
上^ニ位^ニ一^ノ 顯^國と^親一^ノ 相^向へ^ル 成^思ひ^合ま^へる^ベし^と
て^こら^上ノ^第一^等ノ^義ノ^再義^をあ^らは^ル也

本^三ビラケワカル、象 明班殿

此ノ音成^呼ぶ^ハ口^成全^ク開^キて^音成^生せる^也 且^ニ
立^昇る^勢あ^るもの^ハ昇^りて^遂は^そノ^末開^ク貌^を
備^へたる^{こと}於^テ音^第二^等ノ^所は^いへ^るが^{こと}也

末 アザヤカナル象 赤朝貴

こ^も第^三等^ノビ^ラケ^ワカ^ル象^也 い^でたる^末義^也
ふ^りそ^ハ物^ノ開^けたる^ハ鬱^悒一^ノき^こと^あら^ず鮮^ふ

る形状あるものあれはあまはく於ノ音は草木より
いは根のごとく此ノ音ハ花の如き理を具へたるは花
ハ鮮あるが自然の性より天ノ國むより鮮あるはあ
らぬをよと思ひ合まべし

末 大キクヒロキ象

第三等のヒラケワカル象よりいでたる末義也そは
物の開らけたるハ大きと廣き象あれは也はく有於
阿ノ三音いづれも大きある象ありて三音共まじり差
あるは此ノ音の大きある象ハ廣と限りなきが如
く於ノ音の大きある象ハ限りあるがごとく有ノ音

の大きある象ハ動きて勢あるがごとく象を具へ
たり是レ天地泉の三ツノ形状ハ各その差あれはあま
神典ある古傳より明らるは察ひ知るべし

上件第三等よりこれまじりて一義ある
を本末よ分ちてその象找詳は志たる
あり

本 四カ軽ロキ象

於ノ音第三等の所よいへるがごとく立昇りて開くる
ものら凡て軽きものありそは此ノ音口找全と開き
て呼ぶ音あれはそ息空より聚ることなく開け散

粟淡沫

て其ノ音自然オハツカラ軽々たる哉よく唱へ試みてあふべし於

ノ音ニ重キ象 此音ニ輕キ象あることは書紀ニ清陽者スミヤキニヨリケルキス

薄靡ウソナヒキテ而為天重濁者ツヅキテ淹滯ツヅキテ而為地とあるニ合せておも

ふべしけりまゝ此ノ阿音まつけてよくこころえおび

れは適はざることハ此ノ音天ノ國にあだれたる音あるは

それまゝ大虚空の義をもくひ具へたるをよく辨

へかゝるべし 伊ノ音ハ天地の間の氣にあはれたる音阿ノ音ハ大虚空ニ

も適れる音まゝ伊ノ音ハ阿ノ音の内よりちちくたるが 此ノ第四等の本末三義も大虚空の形

をも兼ねたり

末

トリ取シ締マラヌ象 其 其 晚

此も第四等のカロキ象よみてたる末義ふりそは

重きものも自然オハツカラ慥取締りたる貌あるは輕きも

のら自然慥あらげ取締らぬ貌あるもの也假令雲

霞烟ふどもをてつゝ重きもの慥あらげ取締らぬ物ふ

るをもて悟るべしけりこハ上よへるごとく大虚空よ

思ひ合はるべし

末

アヤ怪シマル象 奇 禍

此も第四等のカロキ象よみてたる末義也をハ上よ

いへるごとく輕くして慥あらぬものも目も睨と

見しめ難く手も亦取り難き貌ありて自然ハあ

やーまろゝ象を生せばありさても大虚空も
思ひ合もべー

上件茅四等よりこれまぐ本一義ある
を本末に分ちてその象を詳しうた

あり

本^五オホヒムス象 暑

此ノ音ワカレ昇りて腭ニシヒラクル象あるを長と
唱ふるときはその息覆ひ蒸さ象とありて頤の
方まぐ蒸ー下尻貌ありよく呼試してまろべー
是レ天ツ國の大氣の泉ツ國まぐ及べし幽き理ありさ

了於ノ音茅四等のキザシノボル象と此ノ音のオホヒムス
象と昇降互に通ひてその中ノ衣伊の二音を生じ

形状ら天ツ國の氣ハ下り泉ツ國の氣ハ上りて

今現ノ大地より蒸上る氣ハ

泉ツ國の氣あつこといとも弊キ
由縁あり 是は別よふべー

うえて於ノ音ハ下り位ー上へ

蒸ーあげ此ノ音ハ上り位ー下へ蒸ーおろひう

て此ノ二音より衣伊ノ音を生むこと男女の交接より生

て子伐生まぐごとく此ノ二音上下は放りあつら近

○右本五義合十義

○衣

泉ツ平坂ノ状ニ思ヒ合スベシ又萬物發生ル状ヲカヌル

此ノ音ハ彼ノ一ツの物あり有ノ音より於音のこつれ降
る象の内ニ幽ハこの音の牙カサシを合カサシ包カサシタリ委クハ於の音の所ハ
てきいへるがごとく一合見
そハ彼の泉ツ國の成らむとき時一ツ物ノ内ニ漸
空闕の所を生きむくそこハ此ノ衣ノ音を孕偶せ
を思ふべし

○萬物發生オウライツル貌哉兼る意ハ阿ノ音の上より覆フクひ蒸ユ
於ノ音の下より萌モウ一昇ノボる二音の産ムスビ具ツクよク初ハジて
舌よりて草木の芽立オウライツルごとく發生オウライツルる音あり哉呼コび
試シまシべし

此ノ音泉ツ平坂ハ合へる音あり泉ツ平坂ハ泉國の昇
發の氣残地表もぐ送り出ス氣脉あれば也然るは万物の
發生まらハ彼泉國より蒸發する氣はゆるものあり哉
思ふべし

本カ、グル象

此ノ音有阿衣と連ひて呼ぶときは衣ノ音舌の末少
一うぐる象あり上へるごとく草木の芽立
のことき象あり但し此ノ音の一音別ニ呼ぶときは
は舌の末少一降りて向へおるまいたま象あり舌
の末うぐる象はあらぬ也そは有於阿衣とつらぬ

て呼ぶときは彼ノ於阿ノ産^ム具^ヒより^テ牙立^カ貌^{ダツ}とあり別
よ此ノ音のく呼びて於阿ノ音より^テけざるときは第一
等のカ、グル象、失せて第二等ト^ラ以下ノ 象とあるを
よく味ひ試みてあぶべし^ハげ^ハいともあや^キきもの也

末カビダツ象

上よいへるぶいー

本^三ノブル象

向へ延る舌よ^ハら^ハて^ハあ^ハいづ音あればこの象あ
也これ萬ノ物の漸々延び行^ク貌あり此ノ音專ラ舌の
本ノ觸^ルは万物の發生よ^ハ必根よ^カの^ハ理^カを思ふ

末^三ソダテヤシナフ象

こは第二等のマチノブル象よ^ハい^ハて^ハたる末義ありそ^ハ
萬ノ物凡^テ音養ふときは其物立延る形状ありされ^バ
物のうへ^ハて^ハ此ノソダテヤシナフ義の方本あれども音のラ
へ^ハて^ハ延る舌よ^ハら^ハて^ハあ^ハいづ音の象ありてそれ
よ^ハら^ハこの義ハいづ^ル也

本^三オダス象

此ノ音舌^ノ成^レ向^ヘ延^リて其上^ニ送^リて^ハ音^ヲな^レバこの
象あり自然のものよ^ハ軍士^ノあ^ハを向^ヘか^ハら^ハ出^スて

は諸共は衣いくと聲をうつる也うつる聲成うつると
きらその聲は引立られて已をマとれて向へ進い
もの也ま物に向へ投げつゝあひひ身よそへた鎗
あどを向へうつりいだきとき聲をうつるよおのづら
衣といふ聲のいづものありこれらよ合せこの音の
象を知るべし此ノ象はオシワタス
象をそふたり

末 平よヒロガル象

こは第三等ノオクリイダス象ようつりいでた末義也そ
ハこの三等ニやぐく舌の上を音聲の平らよひろい
づる象あれあり

本四添ソヘヨスル象

第三等のオクリイダス象ハ則物を物よそへよむる貌
あれバ自然この象をあら也されバ第三等の末義の
ごとし又此ノ音を呼ぶ舌を頤の方へそよる象あり

上件第三等より此ノ第四等までハ次身よ
義をあらこの本末よ分ちてその象成
詳よ志たれ也

本五物ニ因リテ活ヲナス象

此ノ音舌よ因りて初て活をあら音あれバ也於阿の二音
いま舌よ
るこちあしよいへ此ノ音の義らこの韻のハ世且祢用末延
るよ合せたふべし

礼慧ノ九音の方ニ因リテ其ノ活を多ク也。或ク言詞辞ト
あらざることハ此ノ音遂ニハ伊ノ音ニ収リ合ヘテ義あり
バヨリ又この韻を重ぬる言詞も亦この韻の上ニつくと言
詞も或のづから少ク然レバ此ノ音ハ有レども無クとも
そをいうよとあれバ大術ノ數五十其用四十有九といへ
よ奇一之合ヒテ天地ノ理ハ満たすものハ漸死物とあるを
一ノ闕を多クときハ活物とある理を具ヘたるもの也されバ五
十音よりテ四十九音の用あるを思ふべし

○右本五義合七義
末二義

伊

天ノ八衢ノ状ニ思ヒ合スベシ又萬物萌騰ル状ヲカケル

此ノ音ハ衣ノ音弥進ミテ此ノ音トある然レバ本衣伊ノ音ハ
同音よりテ唯舌ノ本ニ因リと末ニ因リとの差別あるのみ

○萬物萌騰ヲ兼テ意ハ此ノ音ハ衣ノ音ノ末ニテ衣ノ音ニ萬
物發生ノ意あれバその衣ノ音ノ遂ニ此ノ音トあるよりテ
おもひ辨ふべし又此ノ音天ノ八衢ニ合ヘテ音ありテ天ノ八衢ハ
泉ノ國蒸発ノ氣ノ地中ノ氣脈よりテ送出たると地球上
を放れて大空を昇ル其氣脈を云然るに萬物ノ地上
ニ萌騰ハ大氣よりテものあるを思ふべし

本
立
夕
子
ノ
昇
ボル
象

息 伊穗理

本

^二こみ

チタル象

池市満

此ノ音舌の末找りげて息その舌の末は觸れて成へづ
音よて則彼の大氣の立昇る形状たるよ思ひ合まへ

此ノ音を唱ふるよ息口の内は満たる象なりそハ天地
の間は彼大氣のこちくたるよ思ひ合まへ
「ミチタリウゴク象もあまそは大氣あれバ必ま

本

^三ナ

リト、ノフ象

飯五石

此ハ第二等のミチタル象よりいであたる末義のごとき
の也そハ物のこちたるよきは則成熱ナリトハ義あれバ

末

オ

シサダムル象

オ音有於阿衣伊と順ニ
成りて此ノ音よて成熱也

第三等の成リト、ノフ象あれバ足らばらることよあく動
き轉ることよあく睨し押し定むる義あれバ也ま此
音を呼び試し舌を上引あげて押付るのごとき呼
ぶ音よて自然おー定むる義をあら也

上件第二等より第三等も々の義ハ次第
よあつていであたる也

本

^四ヨ

セツクル象

此ノ音找強々呼ぶよ舌ノ末脣は寄付る象なり

本

五

チカライル象

厭挑甚

上の第四等よいゆるごとく此ノ音を強く呼びて舌の末脣よ寄り付くときハ其舌よチカライル象あり故ものよカを入れて押付るとき聲をくればおのづから伊イといふ聲のいづるもの也まゝ大氣の地球諸星をもサへ持てて凡て其力の限りあるといふことをも思ひ合まべし

上件第四等より第五等の義ハ次第よ生出たる也

○ 過ぎ去ル義

天地ノ間の氣の目よ見とめがたし手よ取りがたきハ過ぎ去りたること目よ見えば手よ取られぬ義より適へるをおもふべしこれバ諸の詞の活用もこの韻の一段より過去の意とあるまゝ過去意の辞のきまじ等も則この韻也

○ 右本五義 合六義 末一義

○ 久

ヒキツケテ末ヲ上ル舌ニヨリテナリイヅル音

此ノ音間口臭の初よ開口息ハ次第よ開けて進み出る音也假令ハ春の日の一日毎よ夏の方よ向ひて経行

くぐること一然るよまべて進み出むとまらものを必
まづ縮ざることとをえむその引き縮むたるカよりりて
進みいづるものあれば春の氣の張出むとばる牙を含みて
冬の氣の引き縮むたるをまじめまべて廣く天の下の
ものを考へ涉して知るべきこと也こればまづ引ツクル
象のつを思ふべしさてまづ舌の末の上るハカノ物の進
むといふ牙を含みてまづ引縮むものら必その末の
上る處を理あれば也

本一

引
キツクル象

沓 歛 括

まはるゝこと

此ノ象は「曲る象をも具へたり」「カワノ象をも具へ
たり」此者此ノ音の舌根引付る象ありて舌の堅
く剛くよらまおのづつ舌は潤をもたむ乾く象あり
此ノ音あつづけ呼試よ必舌の上よりゆくもの也さて

此象は鈍き象を具たりその
須ノ音の尖き象のうらあり

末

短
シカキ象

莖 杙 栗

此ハ第一等のヒキツクル象よりいでたる末義也その物を
つきながきよハ細長き顔のまづ引付るハ其裏より短
き象のれが也

末

親
シタシキ象

此れも第一等のウキツクル象より出たる末義也をハ向
ヘツキイダス象より疎き義ありて此方へ引ツクル象ハそ
の裏より親しき義あれバ也

本^三 カ^堅 タキ象 樟

此ハ物を引付るときは自然堅くあつたものより此ノ音も
引付る舌よりなり成生る音あれバその舌堅く剛る象あ
り呼試してあつてべしされバ此ハ第一等の末義のべし

上件第一等より此第二等まで本一
義あるを本末より二義より分ちてその
象を詳しきたる也

本^三 ワガル象 草種配

此ノ音舌を引付るより喉よりいづる息碎けて其ノ
引き付る舌の左右に分ちる象ありよく呼び試して志
るべし

本^四 ウキアガル象 海月 泳浮

上よりゆるごとく舌の末の浮上る象あり

末^清 キヨキ象

こは第四等のウキアガル象よりいでたる末義ありそハ
濁りて穢しき貌のものらおのづから重くと沈む象あ
るものより浮き上る象より自然清き象を具へたる

もの也又清と爽サヤカよりて亮サマなるほどのものなきらくと
浮立貌あり真寸美鏡マコトミカガミと白玉あどの形状を考合すと

本五カクル象 奇奥闇

此ノ音舌を引付るよらうそその舌口の奥の方へ隠る
象ありカスカタ象をそふへたり

此ノ音とキツクル象よらうて物よカ入る義あり故
手成もて為る業ハ大方この音の活用あること成思ふ
べー流音とこの音とまこ心よちうらをいう義あり
そはうらうらむらぬらにむらぬらたぶれ文はぬらぬら

といむらあどの類あは多し

○此ノ音ワカル象よらうて形状をいふ詞とあふ形状をいふ詞の如

如きと活用くちまふ音雜るハきの音の韻と通ひ何れの詞も形

状の意を轉るときは此久音よ活用さるハあしけ形
状の詞を云居て加ノ音ハ音をそらることあるも則此
音のワカル象よらうてなる也そハマウラハヤグクそ
の形状よ相向ふ象あり也

○右本五義合ハ義末三義

○須

ツキイ出ダシテ下ル舌ニ因リテナリ成イ出ツル音

此ノ音ハ開口息の進ミ出る初メ久ノ音の引付たるカ
よメツキイダス象をませりけりまき舌の末の下
ハ万物進むとけり萌のときハ末の上るものよメ進む
ときハ漸末の下り行るもの也矢あとの飛ぶ状もて
よ〜ま〜も〜也

本^一ツ^衝キイダス象 洲進鈕

上よいへるごごと〜

末^細ホソナガキ象 杉薄筋

物の進ミゆる細長と成る状なり也

末^疎ウトキ象

この二義々第一等のツキイダス象よりいづれなる末義
也々ハ久ノ音第一等の末義の〜ころよいゆるごごと

本^二スル^尖ドキ象

物を進ミ突出り顔よおのづつ〜尖き顔なりものよ
て此ノ音も衝出り舌よ〜生^ナ出る音あれバその尖
き舌よ觸れていづる音あれバ音聲もおのづつ〜尖
き象を具へた〜されバ此ハ第一等の末義の〜

○キ^清ヨクナル象

第二等の中よ自らの含むるハ鋭き性なりものらおの

づいゝ物の清くある象を備へたるものあれはあやたし
へハ酢まゝハ薄荷といふ草ふど突徹ツキトホ如き質なり
物を清くまゝよてまゝべい

上件第一等よりこの第二等まゝ本一
義あるを本末まゝハニ義も分ちて
の義を詳よしと也

本^三セ^三マ^三リ^三ヨ^三ル^三象 好裾統

此ノ音を呼ぶよ舌の中間の堅ハ溝ミヅのごとく成りてそこ
を息の寄りて進いづ音あるをよしく呼味ひて
まゝべいさて萬ノ物尖と進むときハ必らハ寄

る貌あるものよて馬ふどののける形状まゝ風ふどの強
進ぶさまふど凡て草木ふどよいたるまゝ尖と進いて細
長き形あるものハ杉薄菅ふどの類その枝の張り廣から
ずおのづのづの寄り寄りたる形あるをかもふべい

末^四コ^四マ^四カ^四ナル^四象 砂巢簾

此ハ第一等のセマリヨル象よていざたる末義也ハ物の
寄り寄るときは必細ある象ありものふれば也まゝセマ
リヨリタル象ハ細く筋の立たる貌あればその筋のこま
ある象を具へたる義もいづ也

本^四シ^四ヅ^四ミ^四ク^四タル^四象

上よいぬらふごとく此ノ音舌の末の下る象あればある

久ノ音のウキアガル象のうらあり

本^(五)ワザトスル象

此ノ音舌を衝出しく進メ物なきくあつる象あれば為の意よてこの義をあらありされバ自然ある詞もこの行ヲ轉リ活用とときら態とをる意とある

○右^{本五義}合八義

都

上^{ウハヒ}断ニツキ^衝當リテ丸クスル舌ニ因リテナリイヅル音

此ノ音開口息の極よて奴ノ音ハツキヲハル象ハ須ノ音よ尖く

進む象あるものあれば則此ノ音の象をよせらる

本^(一)上ニツク象

此ノ音を呼ぶよ上^{ウハヒ}断の方よ衝當るよよるてこの象

末^高タカキ象

此ノ象上断よツキ當れバ也

本^(二)ツキアタル象 突槌杖

これも上断よ衝き當れバ也

末^剛ツヨキ象

此ハ第二等のツキアタル象よるよいでなる末義ありをハ衝當るものハ必剛き勢ひあるものあれば也

本^三ツマル象 衆積

此ノ音上よいへるごとく上断ニ突當りて丸を舌よ
よらて生^{ナリ}出る音あれバ此ノ象を具へたる也そハ凡て
の物ものは當れバその形迫りて丸を有るものあれバ也

末^丸マルキ象 圓粒露

此ハ第三等のツマル象よるも出たる末義あり

本^四ツラナル象 蔓継妻

此ノ音丸を形をあれ顔のわがのづつらツク形を
あれ顔あり粒くしーた
るがごとしはて其の一ツク形をあれ
たるものハおのづつら列りつづる象あるものあれバ

此義ハあり也されバ此ハまづの例ハ倣ハ第三等の
末義のこしーといへども此義よて名づきたる言詞
もいと多しつらむゆゑしき義あれバ暫と本義の
中よ収たる也

本^五タシカナル象 静濡持

此ハ第三等の義の類よて開け取締らぬ象のつものハ
慥あらぬ象ありよ此ノ音迫りて取締りたる象あれバ
則この義らあり也つら此ノ音を呼ぶよ齒よら外息を
漏さぬ齒よら内よ取し取しめたるごとしき象あり哉
よら呼び試みてみるべし

此ノうたはちヨコナタノモノ
ニヌル義を具へたり

○右 本五義
末三義 合八義

○奴

下 斷ソヘヨセテ平ニスル舌ニ因リテ成イヅル音

此ノ音開口息の終リヨテ都音の突當ル象あるは次
第テ突當レバモヘテ勢の脱ケテ平ニ成リテの盡竟
我あるものあればこの音の象をふせ

○本 一
下 依ニヨル象

○ヒクキ象
此ノ音を呼ぶよ下 斷方ニ添寄るよ

第一等の中は自然含むるハ下ヨテハ即ヒクキ象

れバ也

○本 二
モ 物ニソフ象 縫 兼

上ヨヘテ下 斷ニ添寄る舌ヨレバ此の象

○末 軟
ヤ ハラカナル象 萎 握

此ハ第二等の物ヨレバ象ヨテ末義也
ハ都ノ音の物ニ突當ル象レバ剛キ象あるをハ其の裏
ヨテ物ニ添ふ象レバ軟ウチ象レバ也

○末 親
シ タシ ミヨル象 犬

此も同ゴトク第二等の末義也
ハ物ニ添ふ物ニ親

和ぐ象われバ也

本^三タ^平ビラナル象 布塗寐

此ノ音平ラよ^ナ舌よ^ナ生いぐたる音あれバ此象^ナ

末^持ナダラカナル象

此ハ第三等よ^ナでたる末義也^ナハ平ラあるものナ^ナ括^ナなる象^ナいふま^ナも^ナ也

本^四ウル^潤ホビラモツ象 濡

此ノ音よく唱へ試みる^ナときハ舌軟ぎ^ナおのづ^ナ潤を^ナ持つ也久音を呼ぶ^ナ堅^ナ剛^ナよ^ナ乾^ナ象^ナ

おもひ双て^ナあ^ナべ^ナる^ナべ^ナい^ナ

末ヌル、象

第四等の中ニ自然含む

本^五ツ^盡キラ^竟ハル象 死往

前よ^ナい^ナへ^ナつ^ナぐ^ナこ^ナと^ナ但^ナ此ノ象^ナコ^ナニ^ナ盡^ナキ^ナテ^ナカ^ナシ^ナコ^ナニ^ナ興^ナル^ナ義^ナを^ナ具^ナへ^ナた^ナら^ナし^ナそ^ナハ^ナ此ノ音^ナニ^ナテ^ナ開^ナ口^ナ息^ナの^ナ盡^ナき^ナて^ナ

次の不ノ音^ナ合^ナ口^ナ息^ナの^ナち^ナま^ナり^ナ義^ナわれ^ナバ^ナ也

末^{自然}オ^成ノツ^成カラナル象

此ノ音軟^ナよ^ナ括^ナあ^ナる^ナ象^ナい^ナて^ナ此ノ象^ナを^ナそ^ナあ^ナへ^ナたり^ナこと^ナは^ナ開^ナ口^ナ息^ナの^ナ盡^ナき^ナ竟^ナる^ナハ^ナ自然^ナあ^ナれ^ナバ^ナ也

○右本五義 合九義

不

合塞セフヤグ上唇ノ方へムクル舌ニヨリテナリイヅル音

此ノ音合口息の初よて開口息ハ有ノ音よ開け初よて
奴ノ音よ竟る象あらてて至りて閉ぢ退きて収

るを專とればあるる假令バ秋の日の一日毎よ冬の方へ

向ひて経行ぐこととてて開口息の春の日の一日毎よ復の方へ向ひ
て経行ぐこととあらは合せまるべし

又有ノ音を曉のこととく奴ノ音ハ暮のことと此ノ立月ハ

夜ニ入らむることとき理あり有らぬの間の久須都等の音

まと不ノ音以下の音ハ初夜
はらくま上唇の方へ舌を向らす

る象ハ辰月を合せて口の内よ念こなる息を舌をももて

外へ張り出せ象ありをよく呼試こまるべし此ノ形状ハ

流の業も踏鞞の形状
はらくま味ひ弁ふべし凡ア久須都奴不年由流のハ音二音つ

つ相偶ひて男女のこととく何れもその象表裏よてま相

類あり義ありされば舌の上り下りも二音づ反對まるハ

久ノ音ハ舌の末上り須ノ音ハ下り都ノ音ハ上断ま當り

奴ノ音ハ下断まひ此ノ音ハ舌を上唇の方へ向け年

ノ音ハ下唇の方へ向け何れも上り下りと對ひなるる

由流の二音の上り下りの反對ハよ強弱の
反對あり由の音ハ弱く流の音ハ強く味べしこのよ本音の有

ノ音と和行の字音と相偶ひて本音ノ有ノ音を

開け出る象和行の字の音ハ合ひ収る象より猶男女の
理を具へたる二音づ相偶ひて男女の象をあらはし
必然のべき最もあやしく奇しく妙あり理あり

そハ別は委しくいふべし
開口息ハ二音づ反對して軽重を
兼ねうらうら開口息の強柔ハ強伐
先より柔これより次より合口息ハ二音づ軽重より反對を兼ねうらうら其輕
重輕を先より重これより次より開口息ハ合口息は双べて音九て輕
合口息ハ開口息は双べてハ音九て重
まぐ反對して位の定りたるをよと思ふべし

本^一アハスル象 合益統

此ノ音を呼ぶ唇を合せる象なり也

本^二フクム象 冬咋磬

唇を合せて息を口の内は含む象なり也

末^深フカキ象 更耽

此ハ第二等のフクム象よりいへたる末義也そハ唇茂合
せく口の内は息を含む象なり也その口の内は自然深き象
をあらは也

本^三フクル象 總袋匏

含むもの必外は脹る象ありされば此ノ音を呼ぶ
は類のふくらむをあらはすべし
こつと

本^四ハリイヅル象 柴節落

脹るものち遂は張いつつ勢ひまきこ上よいゆる

とく口ノ内は含みたる息を舌を舌外へ張りて出さる象也
けくこハ第三等の末義のごとく

本^五ヒロガル象 伸

張りて出さる息の漸廣いづる象也これハ第四等也
末義のごとく

上件第二等より此第五等まで本一義
あるを次第ニ義をちて四義よりこれ
たれ也

○右^{本五義}合六義

牟

合セセキツムル下唇ノ方へムクル舌ニ因リテナリイヅル音

此ノ音合口息の漸々閉ゲテ収るを專とられバ不ノ

音の合セ塞々象ハ次第^{ツイデ}てその合セ塞々象の弥重

き方へ行々義より合セ引き結る象をあら也 合セ塞々ハ輕

く合セ引きつむるハ重 さてまゝ下唇の方へ舌を向らる象ハ不ノ音の

たゞめよいづるごごとく

本^一ヒキツムル象 結編績

此ノ音を呼ぶは唇引つむる象あれバ也

本^二一ツニヨル象 向群睦

此ハ第一等の末義のごとく

本^三シムル象 極

此ハ一ツニヨル象の今「際強きハ締むる象ふれば也

本^四マク象

脣をつばむる象は物の内の方へ卷キこむ手りの象は
れバ也されバ此々上の第三等の末義の「こ〜」

末^廻メガル象

末^曲マガル象

茅四等の内よおのづから含むそハ曲る象ハ上よいへど
しく物の内へ曲り入ほどの象ふれば即物を卷る象
を具へたるま〜物を卷る象ハ廻る象ハ水の渦卷

形状ま〜系を持ま〜状あ〜ま〜もあ〜べ〜元〜
廻る形状ハ幾度も本の所は戻り〜ものを卷る〜ごと

上件第一等より此ノ第四等まで次
茅は義を〜して四義はマ〜れたる也

本^五シカヤムト思フ象

物を然ヤむとおもふ時ハおのづからこの音のごとく
脣を引きつむる象ハ〜この物を思ふは廣きこと
を一ツよつばめ〜心よ引締る貌ある也

○右 本五義 合七義
末二義

○由

末ヲアデテ控ル舌ニ因リテナリイヅル音

上よもいゆるごとく合口息の漸々ニ閉ヂテ収るを次第ニまれば不ノ音より唇を合ヤ半ノ音ニテ唇引結、此ノ音より舌を控る也その唇を全くとひきつむれば次ハ舌を此方へ控るの漸々ニ閉ヂ収る次第なれば也

本一カ控ヘヨスル象 弓指結

此ノ音舌を控る象なれば也

末二イ齊ミ慎ツ、シム象 謹

此ハ第一等のミカヘヨスル象よりいふでたる末義也ハ物を控るよかのづゝゝ謹む象なれば也

本二ユ弛ルム象 瘡絶

常ニ平ニ延してある舌の末戔りて此方へ控へよければその舌弛む象をあらはすとバ引延へたる布ふどの向の端をとらへあげて此方へ控へよければ中間の弛貌なりよてまらるべし

本三ヤ和ハラグ象 豊粥煮

押し張りたるものハかのづゝゝ強ク弛たるものハかのづゝゝ和ど象なりよされバ此ハ第二等の末義の

末ヨ柔ワキ象

此ハ第三等のヤハラグ象よりい下たる末義也そハ和ごものハ柔キ象なりこころやもさら也

上件第二等よりこの第三等までハ本一義あるを本末まゝハ二義より分ちてその象を詳よまたる也

本ワク象

湯生

此ノ音を呼ぶ舌の末揺き上る象なりささふぐ水ふどの涌揚る象なりをうく呼び試とてささふぐ

末カサナル象

床 由津某

こら茅四等の涌びぐる象よりい下たる末義也そハ涌揚る貌より下る及ク重り沸る象なりものふれハ也

本タビヨハシキ象 動行露

此ハ涌揚る象より漂ハキ象なりありさればこら茅四等の末義のこころ

上件茅四等より第五等まぎ本一義あるを本末まゝハ二義より分ちてその象を詳よまたるあり

○右 本五義
末三義 合八義

○流

末ヲアゲテビク舌ニヨリテナリイヅル音

此ノ音舌の末を上げて控了象次第てその控了象

の弥重き方を行く義にて末を引く象故ふ

以也 不ノ音年ノ音の
輕重の 由ノ音ハ舌の末を小々挙げ

此ノ音ハ腭ノ付斗り挙げて舌を巻く貌

と呼び試とあつべし 但一長く引きて唱ラレバ有ノ音ニ之ガ
ゆゑその象を夫へり短く呼べば上よ

象つるを
呼び味ふ

本 一
引 ビキヨスル象

此ノ音舌を引らるる象

本 三
搖 ウゴキオチツカヌ象

舌の末を揚げて引らるるその舌揺き落着ぬ象

つゝハ呼び試るるときハ明也

本 三
轉 ウツル象

第二等の中よむのづゝら含むそハ静スウり止れる物ハ轉カハり

變らげらるるを揺きおちつゝぬ物ハ轉ウツり變る義あるも

のあれバ也故内現ナセウツ全まどの言を虚ウツロあど呂ノ音をそそふ

るとき内ウツの空カハあり移カハあど流ウツ音をそそるときハ現の

移り行くこととあるよてあるべしこの類を不カハり

上件第二等より此ノ第三等までハ本義ありを二義に分ちてその象を詳よきこと也

本^四内^空ノムナシキ象

此ハ舌ノ末を挙げて引よる象よその舌ノ外ハ取廻して内ノ空一き象をあせり呼び試してあはるべし

本^五ヲ^終ハリヲサ^定ダムル象

此ノ音の位五十音第九行めより終るまで則終を結ぶむる義なり
和行の位第十行めより終るまでとさきものなり
和行ハ本音より一理られ此ノ行終り成故言詞

の下をのり助けて上は属とことたえ一言もあはぬを思ふべし

合五義

○字

喉ヲスホメテ縮ル舌ニヨリテナリイヅル音

此ノ音本音の有ノ音と男女のごとくよしとつたの義表裏ありけりまこと合口息の年ノ音よ辰月を全くと引結流ノ音よ舌を引寄る象ありけり唇も舌も収る義あれば此ノ音よ喉を窄め縮る舌と共に息も喉の内へ隠れり象ありけり喉を窄る象ハ本

音ノ有ノ音の喉を開ク象の裏舌を縮ル象ハ同トシク
有ノ音の舌を伸ル象の裏あり

本^一ト^止マル象 現全得

開口息の有ノ音ヨリ次^{ツギ}茅^キノひ^ツけ^ケ進^シタル音の
合口息ヨリ次^{ツギ}茅^キノ閉^トマ^レぬ^レルその極^キヨリこの象^ハ
也

本^二ツ^約マリ^聚アツマル象

こハ前ヨリへ^ツじ^トと^ク喉を窄^ムル息を喉の内ヨリ収^ル
象^ハれ^バその息窄^ムル^ツつ^キまり^リ聚^ル象を^ハせ^バ也

本^三内^持ニモツ象

喉を窄^ムル息を喉の内ヨリ収^ル象^ハれ^バおのづ^カら^ニ
の義^ハなり

本^四ノ^延ビタル^物モノ、モ^戻トル象

本音の有ノ音ヨリ延^ビ行^ク象^ハり^テこ^ノよ^リ延^ビ行^ク
その延^ビ行^クもの^ノ戻^ル象を^ハせ^ル也^ニ さて^テま^シ此^ノ象^ハり

末^五ビ^引キモ^還ドス象

本^五カクル、象 心失

喉の内ヨリ息の隠^レれ^ヌ象^ハれ^バ也

○カ^隠クレタル^物モノ、ア^頭ラハル、象 鷄

此ハ茅五等の中ハ自然含りたる義也そハ喉の内ハ息
の隠れ収れろを長々唱ふれバ再息の外へ顕れへで
初ノ有ノ音よ之ヲ象あれバ也さてくく次茅ハ開
けく進出たる音の又次茅ハ閉ぢ収り止れろ再
初ハ還ること輪を画きたるが如く大地の周施ぐぐ
とき形状のを此ノ有ノ韻の一段の顯國ハ適れろ
合せて深く味ひ厚く察ふべし

○右本五義末二義合七義

○通計本七十義末三十三義合百三十三義

版權免許

明治十年

三月七日

茨城縣士族

著者

堀秀成

東京茅三大區七小區
赤塚ッ木町四十四番地寄留

神奈川縣平民

出版人 門人 中村信治

神奈川縣茅廿二大區原區
小松村千五百廿五番地居住

東京
癸兌
書林

日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛
二丁目 山城屋佐兵衛
三丁目 丸屋善七
四丁目 金花堂
本石町二丁目 椀屋喜兵衛
大傳馬町三丁目 東生龜次郎

